

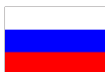
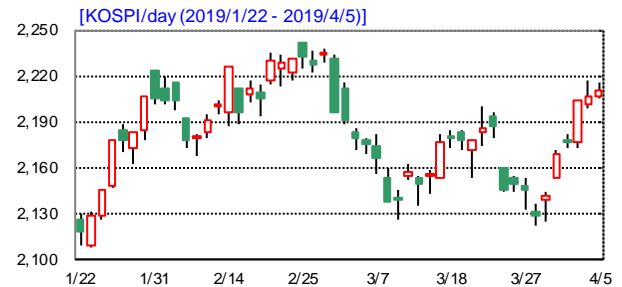


【韓国】 総合指数は週間で3.2%高と反発、今週は利益確定売りで上値重い

先週の動き／今週の展望

総合指数は週間で3.2%高と反発。好調な米株相場や世界景気の減速懸念が後退する中で買いが先行した。指数は週を通じて上昇。サムスン電子などの主力ハイテク株に買いが入り、3日には節目の2200ポイントを回復した。週後半は米ワシントンで開催された米中閣僚級協議を背景とする通商交渉の進展期待が支援材料。5日まで6営業日続伸となり、終値ベースで約5週ぶりの高値を更新した。今週は堅調な展開が予想されるが、利益確定売りも出やすく、上値は重い。米中閣僚級協議や米雇用統計の結果を受けた米株相場に左右されそう。国内では10日に3月の失業率、11日にマネーサプライなどが発表される。また、文在寅(ムン・ジェイン)大統領が10-11日に米国を訪問し、トランプ大統領と首脳会談を行う。

▼指数チャート

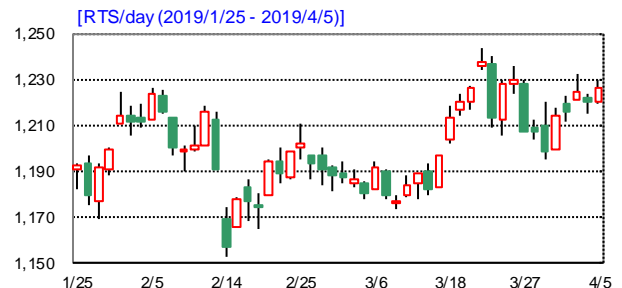


【ロシア】 RTS 指数は2.3%高と反発、今週は追加制裁懸念で神経質な展開

先週の動き／今週の展望

RTS 株価指数は週間で2.3%高と反発。世界経済の減速懸念の後退、原油・ルーブル高、米中通商協議の進展期待などの要因でセンチメントが改善した。週明け1日は3月のマークイット・ロシア製造業PMIが前月を上回る中で、世界的な景気の減速懸念の後退が好感され、指数は前営業日比1.4%高。その後も原油価格の上昇やリスク選好ムードの強まりを受けたルーブルの反発、米中通商協議の進展期待などでロシア株への資金流入が続いた。米国がロシア企業に対する制裁を追加すると報じられ、上値が重くなる場面もあったが、指数は4日を除く4営業日で上昇した。個別銘柄では時価総額上位のズベルバンク、ガスプロムなどが指数を大きく押し上げた。今週は米国による追加制裁の動向が注視され、神経質な展開か。

▼指数チャート



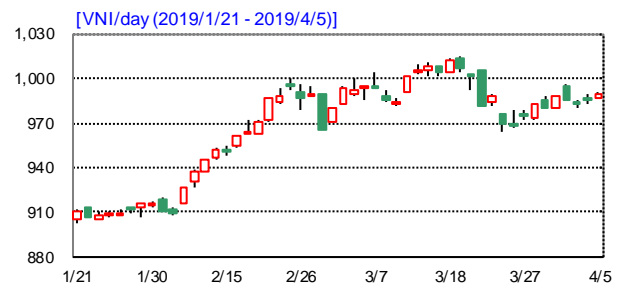
【ベトナム】 ベトナム指数は0.9%高と3週ぶり反発、今週も米中協議の進展が支

援に

先週の動き／今週の展望

VN 指数は週間で0.9%高と3週ぶりに反発。世界的な景気減速懸念の後退や米中通商協議の進展期待を受けて投資家心理が改善した。週明け1日はVN指数が0.8%高と堅調な立ち上がり。中国の3月の製造業PMIが好不況の分かれ目となる50を4カ月ぶりに上回り、中国政府の景気刺激策の効果が表れ始めたとの見方で消費関連株や不動産株などに買いが向かった。その後、世界貿易機関(WTO)が2019年の貿易の伸びに関する見通しを引き下げたほか、アジア開発銀行がアジアの経済成長率予想を下方修正した影響で上値が抑えられたものの、米中通商交渉の進展期待が支援となった。3月第5週から続く下値の切り上げ基調も買い安心感につながった。今週は米中通商協議の進展期待が引き続き好感されるか。

▼指数チャート

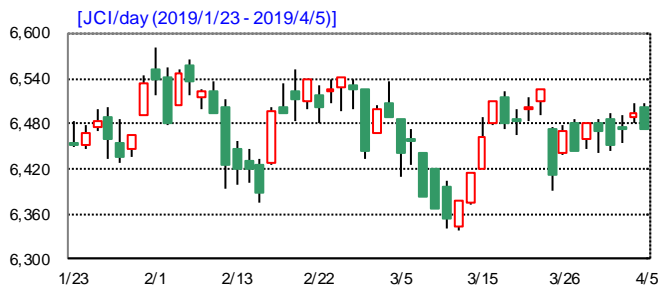


【インドネシア】

【先週の動き／今週の展望】ジャカルタ総合指数は 0.1%高、3月のCPI上昇率は09年11月以来の低水準

ジャカルタ総合指数は4日間の取引で0.1%高と小幅反発。狭いレンジでもみ合う展開となった。週初の1日は前週末から下げ止まらずに続落。同日に発表された3月のCPI上昇率は前年同月比2.5%と09年11月以来の低い伸びだった。2日は世界経済の減速に対する警戒感の後退が好感されて反発すると、祝日を挟んだ4日は場中に一時、節目の6500ポイントに到達した。ただ、5日はワシントンで3日から開催されていた米中貿易協議が終了し、交渉がさらに長期化する可能性が高まったことが嫌気され、指数は3営業日ぶりに反落して取引を終えている。今週は9日に2月の小売売上高が発表される予定。

▼指数チャート

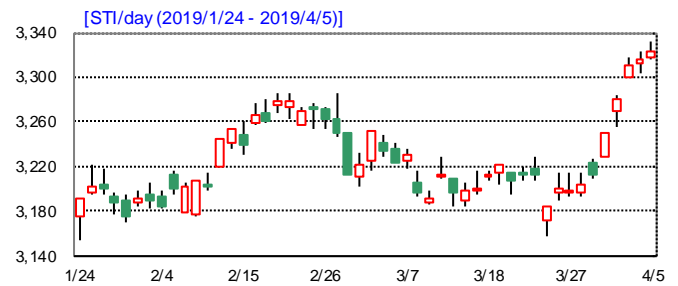


【シンガポール】

【先週の動き／今週の展望】スเตรツタイムズ指数は3.4%高、5日に8カ月ぶりの高値更新

スเตรツタイムズ指数は週間で3.4%高と4週続伸。銀行間取引金利の上昇と融資残高の伸びを背景に金融株が好調で、指数は週末まで7営業日続伸した。週初の1日は中国の3月の公式製造業PMIと財新製造業PMIが景況感の分岐点となる50を回復したことが好感され、指数は前営業日比1.2%高。3日には終値で節目の3300ポイントに到達した。同日の取引終了後に発表されたシンガポールの3月の製造業PMIは50.4と7カ月ぶりに上昇に転じている。5日まで買い優勢の展開が続き、指数は約8カ月ぶりの高値を更新して引けた。今週は12日に1-3月期のGDP速報値と2月の小売売上高が発表される予定。

▼指数チャート

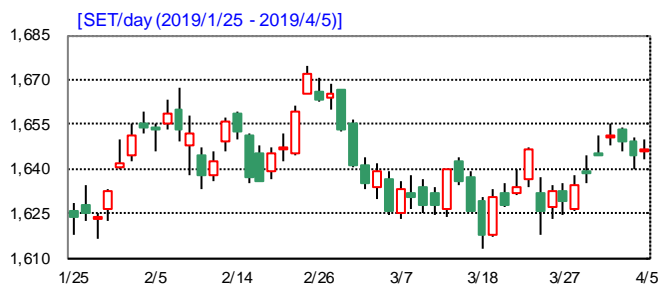


【タイ】

【先週の動き／今週の展望】SET指数は0.5%高、デュシタニとセントラル・パタナが複合施設の建設計画を発表

SET指数は週間で0.5%高と反発。おおむね堅調に推移した。1日は前週後半から3日続伸。個別の銘柄では、約12億米ドルを投じてバンコクに複合施設を建設する計画を発表したホテル大手デュシタニと不動産開発のセントラル・パタナが買われた。2日は米国と中国の3月の製造業PMIが市場予想から上振れ、好感された。一方、3日はWTOとアジア開発銀行がそれぞれ今年の貿易量や経済成長の見通しを下方修正し、株式市場でも嫌気されて反落。4日も続落したが、5日は反発して引けた。今週は国内の経済指標発表が少なく、外部要因に左右される展開か。8日はチャクラー記念日振替休日のため休場。

▼指数チャート

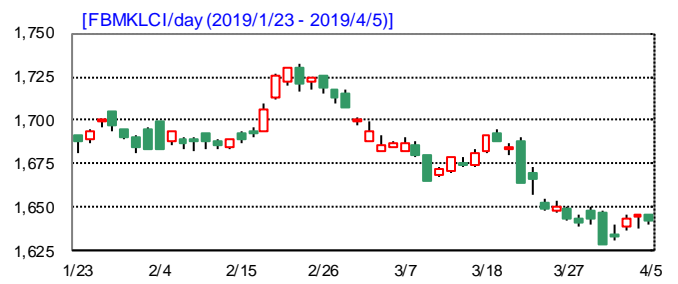


【マレーシア】

【先週の動き／今週の展望】クアラルンプール総合指数は0.1%安、今週は2月の鉱工業生産と小売売上高に期待

クアラルンプール総合指数は週間で0.1%安と3週続落。週末の下落が響いた。週初の1日は金融株に売りが集中し、指数は終値で16年12月以来の安値を更新。中央銀行は前週末に2月の融資残高の伸び率が3カ月連続で低下したと発表していた。指数は2日に反発すると3日はゲンティン系の2社が指数上昇をけん引。4日は2月の輸出額が前年同月比5.3%減と市場予想から下振れたが影響は軽微で、3日続伸となった。ただ、5日は外国人投資家の売りで反落して取引を終えた。今週は11日に2月の鉱工業生産、12日に小売売上高が発表される予定。外部要因では中国の3月の貿易統計に注目が集まりそうだ。

▼指数チャート



本レポートは、株式会社 DZH フィナンシャルリサーチ（以下、「DZH」と称します）により作成されたものです。

本レポートは、DZH が信頼できると判断した各種データ、公開情報に基づいて作成しておりますが、DZH はその正確性、完全性を保証するものではありません。

ここに示したすべての内容は、DZH で入手しえた資料に基づく現時点での判断を示しているに過ぎません。

DZH は、本レポート中の情報を合理的な範囲で更新するにしておりますが、法令上の理由などにより、これができない場合があります。

本レポートは、お客様への情報提供のみを目的としたものであり、特定の金融商品の売買あるいは特定の金融商品取引の勧誘を目的としたものではありません。

また、本レポートによる情報提供は、投資等に関するアドバイスを含んでおりません。

本レポートにおいて言及されている投資やサービスは、個々のお客様の特定の投資目的、財務状況、もしくは要望を考慮したものではありませんので、個々のお客様に適切なものであるとは限りません。

本レポートで直接あるいは間接に取り上げられている金融商品は、株価の変動や、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化、金利・為替の変動などにより投資元本を割り込むリスクがありますが、DZH は一切その責任を負いません。

DZH は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。

DZH およびグループ会社は、本レポートの論旨と一致しないレポートを発行している場合があり、また今後そのようなレポートを発行する場合もあります。

DZH、グループ会社およびその役職員は、本レポートに記載された金融商品について、ポジションを保有している場合があります。

本レポートでインターネットのアドレス等を記載している場合がありますが、DZH 自身のアドレスが記載されている場合を除き、ウェブサイト等の内容について DZH は一切責任を負いません。

本レポートの利用に際しては、お客様ご自身でリスク等についてご判断くださいますようお願い申し上げます。